

一般質問の概要（7名9件）

平成24年第4回 二宮町議会定例会

○12月12日（水）午前9時30分～

（近藤行宏、桑原英俊、添田孝司、脇 正文 各議員）

○12月13日（木）午前9時30分～

（神保順子、根岸ゆき子、小笠原陶子 各議員）

※両日とも2番目以降の質問開始時刻は、直前の質問終了後となりますので、不確定です。

No	質問予定議員	質問概要
1	近藤行宏 議員	<p>定住促進事業の展開について （放映件名：25年度からの定住促進事業の展開について）</p> <p>今年度より行われた中学生との、ふれあいトークにおいて町長より、若い世代の流入に力を入れていきたい旨の意思表示が強く表されていました。</p> <p>25年度からの町総合計画も発表され、実施計画に入っていることと存じます。重点的方針トップに、「生活の質の向上と定住人口の確保」が挙げられ、11月23日の町総合計画町民報告会において、質疑の回答で、政策部長が、高齢者等の安心な暮らし支援、子育て・子育て支援と教育・学習環境の充実、協力と支え合いによる福祉のまちづくり、子育て世代の定住促進に、横断的に十分な予算配分をしていくと言明されました。</p> <p>そこで、「長寿の里二宮」を謳い、行政を担っていかれる上において、</p> <p>①高齢者等の安心な暮らし支援策を具体的にどうされていかれるのかを伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防事業の状況および今後の取組みについて ・法人化後、シルバー人材センターの現在の状況について <p>9月議会、総括質疑において、定住促進のひとつの因子として子育て施策が、重要と受け止めたので、</p> <p>②子育て支援を、どう充実されていかれるのかを伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てサロンは利用者からの要望があるのか、さらに今後の在り方について <p>百合が丘保育園について、町長は、事ある毎に、移転を考えている旨の発言をされていますので、そろそろ、今後の方針を示す時期と感じ、</p> <p>③百合が丘保育園の今後の方針を伺う。</p> <p>人生において成長期と、リタイヤしての10年間は大事な時期であり、子どもの育成、負担の掛からない老後を送っていただくという観点から、</p> <p>④0歳～15歳、65歳～75歳に対する福祉施策の充実を、どう高めていかれるのかを伺う。</p> <p>定住していただく為に欠かせない雇用について</p> <p>⑤若年層および定年後の、十分な雇用機会の確保についての考えを伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用について、どのような方策をとっていかれるのか。 ・シルバー人材センターを、高齢者の受け皿と、捉えていかれるのか、今後の在り方についても伺う。 <p>ベッドタウンと認識する当町で、まちづくりにおける住宅、景観等の維持・整備という点で、</p> <p>⑥住環境の整備に今後どのように取組んでいかれるのかを伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前から云われている「全町公園化」を日帰り観光と絡めて目指されるのか。

2	桑原英俊 議員	<p>二宮町を支える産業化の活性化の取組みについて (放映件名：二宮を支える産業化の活性化の取組について)</p> <p>少子高齢化の急速な発展、人口減少問題など、様々な要因で社会経済は悪化し、長びく不況を抜け出せない状況にあります。</p> <p>この様な状況の中で、二宮町における平成 24 年度の施政方針の重点プロジェクトの中には「町を支える産業活性化」を掲げています。</p> <p>二宮町の産業といいますと、かつては、長寿の里として山・海の自然に恵まれた半農半漁の町として栄え、産業の中でも第 1 次産業の農業、漁業の発展とともに商業についても駅周辺商店街で、賑わいを見せていた商店会を思い出します。</p> <p>農業は増産の時代、漁業は海の資源が豊富な時代、商業では大型店が出店する前は、ものが売れる時代があり、産業全体に経済に潤いのある時代を過ごしてきました。</p> <p>また、二宮町は、昭和 30 年代後半からはベッドタウンとして人口も増加し勤労者の町として発展してきた事は言うまでもありません。</p> <p>今日の様な不景気のなかで、雇用問題も大きく取り上げられていますが、産業全体の問題として対策を講じる必要があると思います。</p> <p>①町の産業活性化の取組みには、農業の再生、漁業の復活、日帰り観光と二宮ブランドの推進、また、商工業振興対策への取組みを掲げていますが、農業、漁業、商工業、観光というどれをとっても、二宮ブランドには欠かせない町の産業であると思います。</p> <p>そういう意味で、1 点目の質問として、二宮町が目指す産業の活性化に向けた具体的な取組みは、どのような手法で産業の構築を描いているのか、町長のお考えをお伺いします。</p> <p>②次に、農業や漁業につきましては、高齢化と後継者不足により将来の担い手に不安があると思われませんが、農業の再生、漁業の復活については、どのような方法で再生や復活を目指すのかお伺いします。</p> <p>③また農業振興においては、特産物普及奨励事業として、落花生をはじめ湘南ゴールドに続くオリーブの普及奨励を進めるということで、平成 24 年度より着手していますが、オリーブ栽培の将来の目標と進捗状況についてお聞きします。</p> <p>また、次年度以降の取組みはどのように考えているのかをお伺いします。</p> <p>④さらに商工業振興においては、駅前商店街の活性化として、平成 23 年度に栄通り商店街を手掛け、今度は北口通り商店街の活性化事業に積極的に取り組んで頂きましたが、今年度の取組みと次年度以降の構想をお伺いします。</p>
3	添田孝司 議員	<p>公会計財務書類で見た二宮町の現状と今後の戦略について問う (放映件名：公会計財務書類で見た二宮町の現状と戦略)</p> <p>二宮町では歳入歳出決算に関する経常収支比率や財政力指数、健全化判断比率(実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率)などの各指標に基づく財政分析が行われている。さらに、総務省の公会計制度に基づき現在改訂モデルを用い 4 つの財務諸表を作成している。現金主義による会計処理では、その一部である資金収支が示されるだけで、普通建設事業費による資産形成に関する情報(ストック情報)が不十分であったが、貸借対照表を作成することにより、資産と資産形成に要した負債の総体を一覽的に把握することができるようになった。二宮町は公会計制度に基づく財務諸表を平成 16 年から作成しており、総務省の資料によれば平成 23 年 3 月時点で、全国 1716 市町村の内 1077 団体が採用しているうちの 1 団体となっている。さらに、固定資産台帳を整備し、平成 23 年 3 月時点で 100 団体しか作成できていない基準モデルへの移行が準備されて</p>

		<p>いるところだ。 質問</p> <ol style="list-style-type: none"> 平成 15 年 3 月 31 日現在から平成 20 年 3 月 31 日現在までは、毎年総務省モデルで財務諸表が作成されていた。この間は分析した説明があったが、改訂モデルに変更された以降は分析した説明がなされなくなったのはなぜか。 財務諸表及びその分析資料を内部管理（行政マネジメン）の目的としてどのように活用してきたか。 今後の活用についてどのような計画があるか。
4	<p>脇 正文 議員</p>	<p>遠距離を通学する中学生に対する町の支援について （放映件名：遠距離通学中学生に対する町の支援について）</p> <p>暑い日も寒い日も通学の為に自転車を使い、悪天候の時はバス通学に頼る等一色・緑が丘などの遠距離から通学せざるをえない中学生を、遠距離通学故に可能性が高まる様々な被害からの回避や、公教育における保護者の余計な出費を抑えるために、バスの無料乗車券を配布すること、そして、これが運行の為に毎年 1200 万から 1300 万円程の税を投入するコミュニティバスの費用から出すことを行えば、より多くの町民に還元される税金の使い方となり、未来の二宮を背負ってたつ若い世代にも優しい町づくりの一つとなり、町長の言う定住促進にも繋がると思われる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①朝夕の通学時間帯に釜野方面を経由するバスの利用人数の曜日毎の平均を百合が丘方面から釜野方面とその逆方面に向かう路線毎に回答願いたい。 ②これらの人数のここ数年の動向変化を回答願いたい。 ③遠距離通学の中学生に対する無料乗車券の配布についてどう考えるか、町の回答を求める。 <p>県道沿線の住民はいつまで不便な生活を我慢すれば良いのか （放映件名：県道二宮秦野線の横断歩道はいつ出来るのか）</p> <p>西友北側と県道西友北から緑が丘交差点までの間の横断歩道設置について一般質問をしたが、10 年以上前から一色・中里地区より設置要望が出ている。こんな日常生活の中での不便さを抱えながら県道沿線の住民は一体いつまで我慢しなくては行けないのだろうか。 住民に優しい町でなければ町長の進める定住促進は出来ない。現在までの、町等のこの件に対する捉え方と、問題に対する進捗状況の回答を求める。</p> <p>学校水泳授業に温水プールを使わず、山西プールを 4 校で使うことは適切か （放映件名：一色小学校の水泳授業を温水プールで）</p> <p>毎年 7 月初めから約 2 週間学校の水泳授業が行われるが、この間、毎日町のプールが利用される。山西プールは以前より山西小・二宮西中学 1 年・二宮小高学年が利用しており、更に同時に一般者への開放も行われ、その過密さは酷いものだった。しかし、百合が丘プールが廃止された為一色小学校がここに加わることはやむを得ぬことと思われるが、一色小学区には温水プールがある。</p> <p>前述の事情と、児童・保護者・教師等にも温水プールでとの声があることから、一色小学校の水泳授業は温水プールで行うのが良いと考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①一色小学校の水泳授業を山西プールで行う理由は何か。 ②児童を山西プールまでバスで移送する理由、費用とその算出方法は。 ③このバスはどのように運行されているのか。 ④今後について一色小の温水プール利用、バス運行、一般者の開放をどう考えるか、町の回答を求める。

5	神保順子 議員	<p>子ども・子育て新システムにおけるまちづくりからみる町の子育て支援策 (放映件名：新たな制度における町の子育て支援策)</p> <p>①ニーズ調査の実施について ②子ども・子育て会議の設置について ③子育て支援施策における町の方向性と事業計画の策定について</p>
6	根岸ゆき子 議員	<p>ごみ処理について。 広域化へ参入できたことを踏まえ、その進捗状況について問う (放映件名：ごみ処理広域化について)</p> <p>1. ごみ処理広域化の進捗状況について ・各広域施設の状況について ・現在のごみ処理が変更することで町にどのような影響があるか</p> <p>2. ごみ分別について ・資源ごみの町内における保管や分別、収集内容について ・大型ごみの扱いについて</p> <p>3. 剪定枝資源化施設について</p>
7	小笠原陶子 議員	<p>町の自治体広報戦略を問う。 (放映件名：町の自治体広報戦略を問う)</p> <p>二宮町は、住み良い町として定住促進を進めていかねばならないのは、総合計画作成時にも確認されたところである。 地域間競争に勝ち残り、住民に開かれた自治体であるためには、的確な広報戦略に基づいた行政広報、地域広報が必要である。 また、単なる観光客誘致や「まちづくり」にとどまらない、対地域内・対地域外への広報をも的確に組み込んだシティセールス、シティプロモーションが求められている。 そこで、広報・広聴戦略を文書化し、役場のすべての部署に共有化できる、広報・広聴戦略計画を策定することが必要だがその考えを伺う。</p> <p>1. 行政広報の基本目標を明確に 2. 事業別広報戦略はどうか 3. 計画策定までのスケジュールは</p>